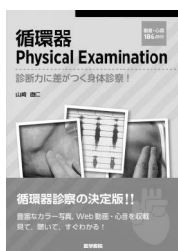


書評

[評者]

水野 篤

聖路加国際病院循環器内科



循環器 Physical Examination

[動画・心音 186 点付]

診断力に差がつく身体診察!

山崎直仁 著

●B5 頁 188 2017年9月

定価: 本体 5,000 円+税

[ISBN978-4-260-03235-3]医学書院刊

本書が類書と比較にならないほどの明らかな優位性は、筆者の圧倒的なフィジカル能力を別として2点ある。一つは動画・音声コンテンツ、もう一つは温故知新である。

心音のみならず頸静脈などの動画を多く含んでいることに加え、筆者が心尖拍動といったかすかな視診・触診の所見を初学者にどう伝えるかを検討してきた末に到達した「ふせん」まで、過去にも動画音声を含む書籍は多数あるが、それらと比較してもかなり豊富なコンテンツが盛り込まれている。スマートフォンやデジタルカメラといったデバイスの進化で視診・触診のダイナミクスを実際に読者に伝えることが可能となった。なんとといっても「百聞は一見にしかず」ということで、視診の大切さを再度思い出させてくれるだろう。実際に例年神戸で行われる、循環器 Physical Examination 講習会も、今は心音に加え頸静脈、心尖拍動といった所見がかなりの要素で含まれるようになってきており、その講師達の中にある「暗黙知」をふんだんに盛り込んでいるので読んでいて“お得感”がある。視診および聴診を合わせることで診断に近づくことができるということを、他の誰より筆者が楽しんでいるこ

とが伝わると思う。

さらに、本書は動画や心音で、直接の五感に訴えるだけではなく、偉大な先人、吉川純一先生や福田信夫先生の書籍に近い含蓄、知恵というものを残している。ぜひ、細かな一言一句をかみしめて読んで欲しい。これは自分のような若輩者にはできないことである。本書を読むことで、おそらく過去の先人たちが何を大切にしてきたかということを感じることができるだろう。

最後の症例集においては、ぜひ読者の皆さんには診断名を隠して疾患を当てることをしていただくことを推奨する。そういう意味では、自信がある読者には動画コンテンツから入るという楽しみ方もある。

一つだけ注意点がある。スマホで閲覧できるようにしたのは画期的であるが、心尖拍動や頸静脈のコンテンツは本当にかすかな所見であるため、電車などの振動で容易にわからなくなる。特に新幹線などではせっかくの音や頸静脈拍動も台なしである(笑)。

心を落ち着ける環境で、穴があくほど見て、繰り返し聞いて、身体診察のアートを感じて欲しい。